



01. 会場風景 (ギャラリー2) (撮影: 吉村昌也)

21_21 DESIGN SIGHT 企画展 「2121年 Futures In-Sight」展

会期延長のお知らせ

2021年12月21日(月) - 2022年5月22日(日)

本資料に関するお問合せ 21_21 DESIGN SIGHT 広報 / HOW INC

tel: 03-3475-2123 fax: 03-3475-2124 mail: press_2121futures@2121designsight.jp

■ 企画主旨

21_21 DESIGN SIGHTでは、2021年12月21日より「2121年 Futures In-Sight」展を開催しています。この度、本展は会期の延長を決定いたしました。

本展の展覧会ディレクターは、テクノロジーが人類の文化やライフスタイルをいかに変えるのか、その未来を見据えた数多くの書籍や雑誌を手がける編集者の松島倫明が務めます。

英語では優れた視力を「20/20 Vision (Sight)」と表現します。私たちの「21_21 DESIGN SIGHT」という名称は、さらにその先を見通す場でありたいという、「未来」に向けた想いからつけられました。この展覧会が始まる2021年から、ちょうど100年後は2121年。私たちの活動の名称と同じ数字を持つ100年後の世界に想いを巡らせるところから、本展の構想は始まりました。

古くから人々は、明日の天気から、その年の作物の収穫、将来の国の繁栄まで、まだ見ぬ先の世界を捉えるために、さまざまな予言や予測を行ってきました。近年では、情報解析や計測に関するテクノロジーの著しい進歩に伴い、より精緻な予測が可能になっているように感じられるかもしれません。しかし、そもそも「未来」は過去の延長線上にだけ存在するものでしょうか？

現在、私たちは、世界的なパンデミックを体験し、生活様式やコミュニティのあり方、コミュニケーションの手法などにはじまり、物事の考え方や価値観など、ありとあらゆるものが劇的に変化していく様子を目の当たりにしています。そのことは「未来」がいかに未知なるものであるかを私たちに強く実感させることとなりました。

本展では「Future Compass」（未来の羅針盤）というツールをきっかけに、未来を思い描くだけでなく、現在を生きる私たちの所作や創り出すものに内在する未来への視座を、デザイナーやアーティスト、思想家、エンジニア、研究者など、多様な参加者たちとともに可視化していくことを試みます。身近な存在からまだ見ぬ他者、それらを巡るさまざまな時間軸へ思いを馳せる中から生まれた未来にまつわる視座は、繁茂する草木のごとく「複数形の未来」を形成していくものとなるでしょう。

そして、本展は、多くの「未来への問い」を準備することで、「未来を考える行為」そのもの考える場にもなっています。来場者の方々が、デザインとともに明日を創造していくための豊かな洞察 (insight) を考える機会となることを目指します。

■ 開催概要

会期	2021年12月21日(火) – 2022年5月22日(日) [会期延長]
休館日	火曜日(12月21日、5月3日は開館)、年末年始(12月28日 - 1月4日)
開館時間	10:00 – 19:00 (入場は18:30まで) / 入場予約制の可能性あり ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、1月21日より当面の間11:00-18:00(入場は17:30まで)
入館料	一般 1,200円、大学生 800円、高校生 500円、中学生以下無料
会場	21_21 DESIGN SIGHTギャラリー 1&2 〒107-0052 東京都港区赤坂 9-7-6 東京ミッドタウン ミッドタウン・ガーデン tel. 03-3475-2121 www.2121designsight.jp
アクセス	都営地下鉄大江戸線「六本木」駅 東京メトロ日比谷線「六本木」駅 東京メトロ千代田線「乃木坂」駅より徒歩5分
主催	21_21 DESIGN SIGHT、公益財団法人 三宅一生デザイン文化財団
後援	経済産業省、港区教育委員会
特別協賛	三井不動産株式会社
協力	株式会社中川ケミカル

文化庁「ARTS for the future!」補助対象事業

展覧会ディレクター	松島倫明
グラフィックデザイン	上西祐理
会場構成	中原崇志
企画協力	水島七恵、平瀬謙太郎
デジタル コンテンツ設計	CANOPUS
参加作家	青木竜太、安藤瑠美、e-lamp。(山本愛優美)、池上高志、石川善樹、石川 凜、石山アンジュ、稲見昌彦、we+、内田まほろ、内田友紀、evala、江間有沙、大川内直子、大澤正彦、大塚桃奈、岡崎智弘、岡島礼奈、小川絵美子、小川さやか、ライラ・カセム、鎌田安里紗、寒川裕人(ユージーン・スタジオ)、北村みなみ、木原 共、ウィリアム・ギブスン、キリーロバ・ナージャ、クラウディア・クリストヴァオ、Qosmo×朝日新聞社メディア研究開発センター、齋藤帆奈、佐藤 卓、清水イアン、Synflux、管 啓次郎、諏訪綾子、生環境構築史、アビール・セカーリ、関根健次、ケイト・ダーリング、高橋祥子、玉城絵美、アンソニー・ダン、東京藝術大学 Sputniko! Lab (M2 岩藤愛実)、エレナ・トゥタッチコワ、戸谷洋志、中嶋 愛、中島さち子、長嶋りかこ、永山祐子、能作文徳、NOMA(ノーマ)、PARTY、畑中章宏、HUMAN AWESOME ERROR、廣川玉枝、深澤直人、船橋真俊、Placy、細尾真孝、マクティア マリコ、松本紹圭、真鍋太一、水野大二郎、溝口カ丸、宮下拓己、mui Lab、村上祐資、森田真生、山崎 亮、エイザ・ラスキン、Licaxxx、渡邊康太郎

21_21 DESIGN SIGHT ディレクター	三宅一生、佐藤 卓、深澤直人
アソシエイトディレクター	川上典李子
プログラム・ディレクター	前村達也
プログラム・マネージャー	中洞貴子

■ ディレクターズ・レター

22世紀の歴史の教科書には、「プレパンデミックの時代には、人類はインターネットをまだほとんど使っていなかった」と書かれていることでしょう。いまから100年後の人々から見れば、COVID-19以前はみんな満員電車に乗って朝から学校やオフィスに行ったり、ウイルスをもち寄って病院に集まったり、会議室に物理的に集まれる人だけで大切な意思決定をしたりしていたのは、「インターネット」がまだ社会に実装されていなかったからだ、と了解されるでしょう。未来から眺める過去は、いつもこうして現在を書き換えていきます。

かつて哲学者のフリードリッヒ・ニーチェは、「過去が現在に影響を与えるように、未来が現在に影響を与えている」と語っています。過去の積み重ねの先にいまがあるように、未来を思い描くというその行為が、いまのわたしたちの意識や社会をかたちづくっているということです。であるならば、いまこの2021年を決定づけている「未来」とは何でしょうか？ それは人類のどんな想像力／創造力から生まれているのでしょうか？ それを「未来を考えるための問い」というかたちで探ることが、「2121年 Futures In-Sight」展の目的です。

だから本展は、「100年後がどうなっているか」という未来予測を披露するものではありません。もしかしたらいまの10代やもっと若い方々なら、実際に2121年に答え合わせができるのかもしれませんが、その正誤が重要なわけではないのです。今回は国内外の多彩な分野の第一線で活躍される方々に「Future Compass」という未来への羅針盤をお渡しして、それを実際に手でクルクルと回しながら3つの単語をつなげ、そこから未来を考える上でのご自身の問いを自由に導き出していただきました。「2121年を想像する (in sight) とはいかなる行為で、そこにはどんな視座と洞察 (insight) が込められているのか」、その問いこそが本展の作品なのです。

「未来はすでにここにある。ただ均等に行き渡ってないだけだ」という言葉でも有名なサイバーパンク SF の巨匠ウイリアム・ギブソンは雑誌『WIRED』日本版のインタビューにおいて、「なぜわたしたちは22世紀を想像できないのか？」と語っています。そこには、「未来」のありかを問うのと同時に、「未来を想像する行為」についての深い洞察が示唆されています。

前世紀において、21世紀をイメージすることは比較的簡単でした。企業や国家によって目指すべき未来が提示され、実装されてきました。結果的に人類は目覚ましい発展を遂げた一方で、未来同士が衝突して多くの戦争や紛争が起こり、未来からこぼれ落ち取り残された多くの存在がありました。外部不経済に目をつむってきたことで、いまや急激な気候変動に直面する地球もそのひとつです。

そんな21世紀に生きるわたしたちが、未来に慎重になるのは当然です。でもそれは、「未来を考える行為」を諦めたということにはなりません。そうではなく、誰かにいつの間にか決められた「未来」に抗うという態度

なのです。そのための最良の方法は、できるだけ多くの未来を、できるだけたくさんの人々が準備することでしょう。未来への問いがいくつも集まり、「Futures」という「複数形の未来」が一人ひとりによって能動的に編まれていくこの空間が、いま「未来」と呼べるもののひとつのかたちになっていたらと願っています。

人類はこれまでもずっと、未来を想像し、実際に創造してきました。7万年前にホモ・サピエンスに起こった“認知革命”によって、宗教やアートや建築といった文化が花開き、何よりも、実在しない「想像の産物」をほかの誰かに伝えることができるようになりました。それが「未来」の始まりでもあるならば、「未来を考える行為」を考える、という本展そのものが、人間を人間たらしめたその根源的な営為を問い直すことだと言えるでしょう。

本展に来られたみなさんが未来を考えるという行為に加担し、さらにほかの誰かにそれを伝えようとしたときに、わたしたちはついに「2121年」をこの手に取り戻すことができるのです。

松島倫明



02. 松島倫明

松島倫明 Michiaki Matsushima

未来をプロトタイプするメディア『WIRED』の日本版編集長としてWIRED.jp / WIREDの実験区“SZメンバーシップ” / 雑誌(最新号VOL.41特集「NEW NEIGHBORHOOD」 / WIREDカンファレンス / Sci-Fiプロトタイプング研究所 / WIRED特区などを手掛ける。NHK出版学芸図書編集部編集長を経て2018年より現職。内閣府ムーンショットアンバサダー。訳書に『ノヴァセン』(ジェームズ・ラヴロック)がある。東京出身、鎌倉在住。

■ Future Compass

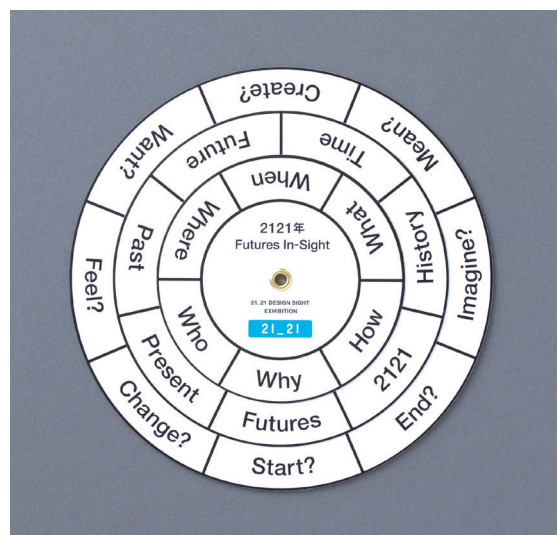
「Future Compass」は、私たちが思い描く「未来」への羅針盤であり、未来に向けた「問い」を導き出すためのツールです。3層の円盤から構成され、21のキーワードを自由に組み合わせることで、自身のオリジナルの「問い」を導き出すことができます。

■ Future Compass Digital

「Future Compass」はオンライン上で体験していただくことができます。くるくると回しながら3つの「言葉」を選ぶと、同じ「言葉」の組み合わせを選んだ参加作家の展示の「問い」と「インサイト」、また会場内での展示位置を確認することができます。

(設計：CANOPUS)

<https://2121futuresinsight.jp>



03. 「Future Compass」(デザイン：上西祐理 / 撮影：秋山まどか)

■ 展示内容紹介

「宇宙 138 億年の歴史を歩く」(サウンド提供: evala)

宇宙の誕生から現在までの 138 億年の歴史を、地球時間 1 年 (365 日) のスケールで体感できるインスタレーションです。人類の時間感覚とは異なるスケールを体験することから本展は始まります。

「問い」と「インサイト」

参加作家が「Future Compass」から選んだ「言葉」、導き出した「問い」と、各々が自身の専門領域や生活哲学に基づきながら形にした「インサイト (視座・洞察)」を展示します。

作家名 | 肩書き

[作家が選んだ「言葉」] 言葉から導き出された「問い」

青木竜太 | コンセプトデザイナー、社会彫刻家

[How / 2121 / End?] 星を継ぐもの達のために、私たちは何を変えなければいけないのか?

安藤瑠美 | フォトグラファー、レタッチャー

[What / Futures / End?] 私たちにとってハッピーエンドな未来とは何か?

e-lamp. (山本愛優美) | Nexstar CEO、慶應義塾大学情報環境学部 3 年

[How / Present / Feel?] もしも「心」が可視化されたら、社会はどう変わる?

石川 凜 | ポケットマルシェ事業開発部リーダー

[How / Time / Feel?] 「時」はどのように感じられるのか?

we + | コンテンポラリーデザインスタジオ

[How / Future / Imagine?] どうやって未来を想像するか?

evala | 音楽家、サウンドアーティスト

[■■■■■■ / ■■■■■■■■ / Feel?]

江間有沙 | 東京大学未来ビジョン研究センター准教授

[Who / Present / Mean?] 「未来を考える私」の言葉が指し示す「私」とは誰だろうか。

大塚桃奈 | 上勝町ゼロ・ウェストセンター “WHY”

[Why / Present / Create?] いま、なぜつくるか

岡崎智弘 | グラフィックデザイナー

[How / Time / Create?] 人間の手作業は 100 年後にはどのように変化しているのでしょうか?

岡島礼奈 | 株式会社 ALE 代表取締役 CEO

[How / Futures / Create?] どうやって未来を創っていくか。

木原 共 | インタラクティブデザイナー

[Where / Futures / Start?] 仮想標識は都市の未来を変えうるのか?

ウィリアム・ギブスン | SF 作家

[Why / 2121 / Imagine?] なぜ 22 世紀を想像できないのか?

Qosmo × 朝日新聞社メディア研究開発センター | アーティスト/研究者

[How / Futures / Imagine?] 未来たちをどのように想像することができるか?

佐藤 卓 | グラフィックデザイナー

[What / Future / Change?] ゴミの概念が変わる?

Synflux | スペキュラティブファッションラボラトリ

[How / Futures / Want?] 複数の現実を生きる「次の人間」はどのようにして、未来の衣服を欲望するのだろうか？

諏訪綾子 | アーティスト、food creation 主宰

[What / Future / Feel?] どんな未来をあじわいたいのか？

生環境構築史 | 研究同人

[How / Future / Create?] 未来の人類はその生環境をどのように構築しているだろうか？

東京藝術大学 Sputniko! Lab (M2 岩藤愛実) | アーティスト、研究者

[Who / Futures / Create?] ウイルスのデザインが身近になったら、どんな未来になるのだろうか？

長嶋りかこ | グラフィックデザイナー

[When / 2121 / Start?] いつから 2121 年が始まるのか？

PARTY | クリエイティブ集団

[How / Present / End?] 一般的に、人間は過去のデータや経験を元に近い未来を予測します。それによって、予測が時に悲観的になったり、消極的になったりします。もし、遠い未来を先に想像して、現在に向かって戻ってくるとしたら、近い未来はどのように想像できるのでしょうか？

HUMAN AWESOME ERROR | アートコレクティブ

[How / Time / Feel?] がん細胞にとって時間とは何だろうか？

廣川玉枝 | 服飾デザイナー

[How / Future / Create?] どうやって未来をつくる？

深澤直人 | プロダクトデザイナー

[How / Future / Imagine?] どうやって未来を想像しますか？

船橋真俊 | 物理学博士

[What / Futures / Create?] 100年後の未来に、全ての命と生きていくための想像力の共通基盤とは？

Placy | 企業

[Where / Futures / Mean?] 100年後の人間にとって、リアル（場所）の担う意味は何か

細尾真孝 | 株式会社細尾 代表取締役社長

[Why / Future / Past / Want?] なぜ未来は過去を欲するのか？

mui Lab | テクノロジー&デザイン スタートアップ

[How / Time / Feel?] 私たちは家族の時間の移ろいをどのように記憶するのだろうか？

渡邊康太郎 | コンテキストデザイナー、慶應義塾大学 SFC 特別招聘教授

[Who / History / Mean?] 誰が歴史を意味づけする？

参加作家 72 人の選んだ「言葉」と「問い」から、一部抜粋してご紹介しています。（作家名 50 音順）

「インサイト」は会場でお楽しみください。

会場には本展の主旋律となる「Future Compass」の展示とともに、「未来」を考える際に必要となるコンテンツを展示します。本作品は、展覧会企画メンバーにより構成、制作されたコンテンツです。これらの展示が混在した空間で、来場者は多彩な視座に出会えます。

「100年前に想像された未来」

言論誌『日本及日本人』の増刊号として1920年に発行された「百年後の日本」から、100年前に想像された未来の姿を紹介する展示。

「地球の時間軸」

岐阜県美濃地方の鉱山で採れた花崗岩など、500万年前から1000万年前という時間を包括する自然物を集めた展示。

「タイムモノリス」

100年という時間軸を“高さ”に置き換え、透明な四角柱（モノリス）に並べることで、モノの変化を可視化した展示。

「未来への視座をプロトタイプする」

「バックキャスト」「フォアキャスト」「差分としての未来」など、未来を考える上で必要となる視座を紹介する展示。

「SF小説が予言した未来」

「インターネット」や「アンドロイド」など社会に実装されつつある技術が、SF小説においてどのように描かれていたかを紹介し、「未来を考える」という行為の本質を考える展示。

「未来を予測する術①数式」

自然現象の謎や、乗り物の性能、人間の行為を予測する手段として古くから使われてきた数式を紹介する展示。

「未来を予測する術②観天望気」

ことわざとして昔から言い伝えられているものから、科学的根拠のあるものまで、さまざまな観天望気（天気予報）を紹介する展示。

「未来を予測する術③占い」

人の運勢や物事の吉凶、将来の成り行きを判断・予言する占いについて紹介する展示。

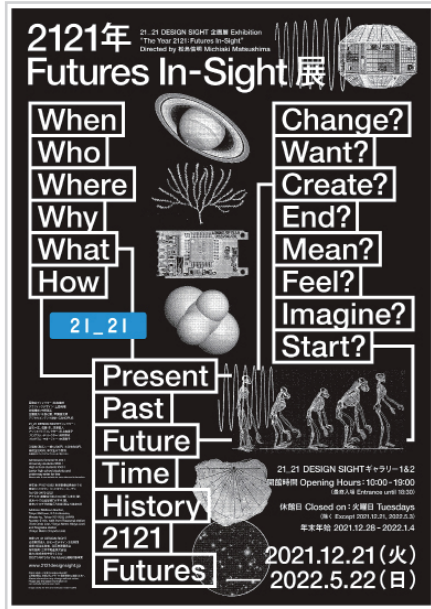
■ オンライントークイベント「Future Compass Dialogues」

展覧会ディレクター松島倫明とともに、参加作家の「Future Compass」の思考の軌跡を辿るオンライントークシリーズを開催します。現在開催が決定しているイベントは下記の通りです。今後の予定については決まり次第ウェブサイトにてお知らせいたします。

「Future Compass Dialogues vol.2」

2022年3月29日（火）20:00-21:30 出演：川崎和也（Synflux）、蔡海、福原志保（HUMAN AWESOME ERROR）、松島倫明

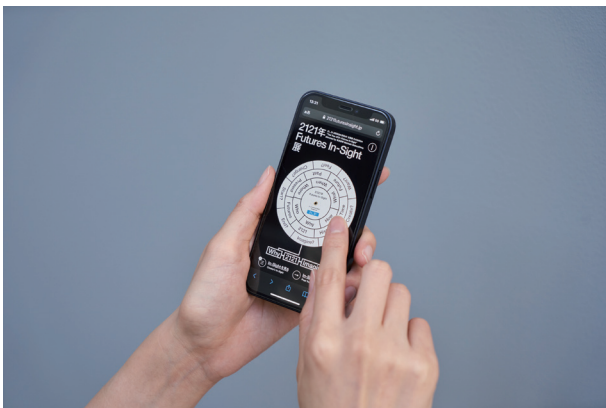
■ プレス画像



04. 展覧会ポスタービジュアル



05. 「Future Compass」(デザイン: 上西祐理/撮影: 秋山まどか)



06. 「Future Compass Digital」(設計: CANOPUS/撮影: 吉村昌也)



07. Qosmo × 朝日新聞社メディア研究開発センター
「Imaginary Dictionary - 未来を編む辞書」



08. 廣川玉枝「Kimono Couture」(撮影: 吉村昌也)



09. PARTY「バック(キャスト)します」(撮影: 吉村昌也)



10. 安藤瑠美「TOKYO NUDE」(撮影：吉村昌也)



11. 佐藤卓「duct Circulating Pro」(撮影：吉村昌也)



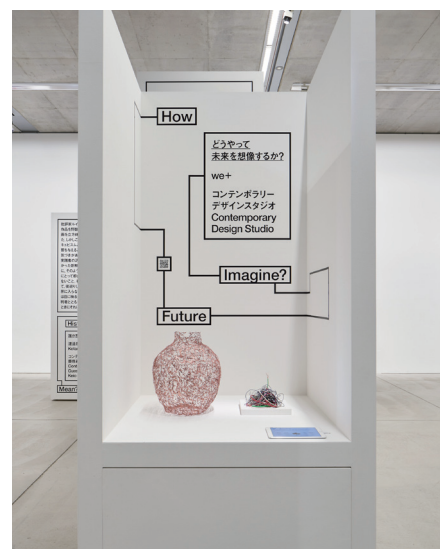
12. 岡崎智弘「手で作る時間」(撮影：吉村昌也)



13. 深澤直人「REAL FOOD」(撮影：吉村昌也)



14. HUMAN AWESOME ERROR
「Super Cell 1. 不良息子像 2.Membrane 3.Ligh in Sight」
(撮影：吉村昌也)



15. we+ 「Copper Wire Project」(撮影：吉村昌也)



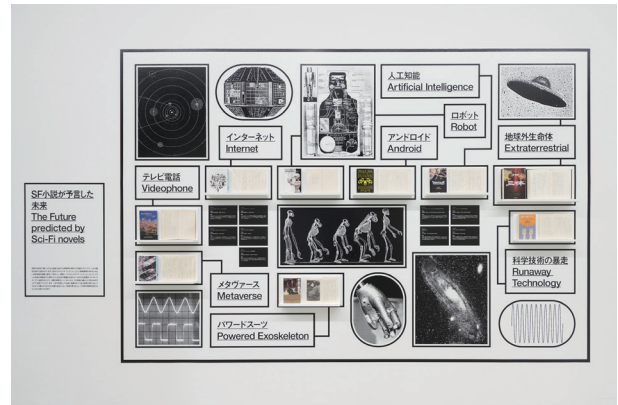
16. Synflux 「WORTH—ダイジェティック・コレクション—撤退線 β」
(撮影：吉村昌也)



17. evala 「-a」 (撮影：吉村昌也)



18. 「地球の時間軸」 (撮影：吉村昌也)



19. 「SF小説が予言した未来」 (撮影：吉村昌也)

■ 会場写真（撮影：吉村昌也）



A. 会場風景（ロビー）



B. 会場風景（ギャラリー-2）



C. 会場風景（ギャラリー-2）



D. 会場風景（ギャラリー-2）



E. 会場風景（ギャラリー-2）



F. 会場風景（ギャラリー-2）